

令和3年度第2回広島市都市デザインアドバイザー会議 会議要旨

- 1 開催日時
令和3年9月2日（木）15:00～16:30
- 2 開催場所
JMSアステールプラザ大会議室A・B
- 3 出席者
出席委員（7名）
田中 貴宏、角倉 英明、今川 朱美、高田 由美、柏尾 浩一郎、吉田 幸弘、
小菅 加代子
- 4 議事
広島市医師会運営・安芸市民病院病棟等建替え工事について（1回目会議）
- 5 公開・非公開の別
公開
- 6 傍聴者
一般傍聴者 2名
報道関係傍聴者 1社
- 7 会議資料
会議次第、委員名簿、広島市側出席者名簿、配席図、議事資料（広島市医師会運営・安芸市民病院病棟等建替え工事について）
- 8 会議要旨
議事内容の説明を行い、デザイン上の配慮事項に関する御提案をいただいた。
今後の検討事項は次のとおり。
 - (1) 外観デザインの方向性について
ア 地域性を考慮しつつ、新しいデザインとするのか、デザインの方向性について検討する。
イ 将来、既存棟の外壁改修等を行うことを見越し、既存棟の色やサインについても検討する。
ウ サインの色は、診察券のカラー等のイメージカラーを参考とする。
 - (2) 植栽について
ア 緩和ケアという病院の機能に合わせた植栽計画を検討する。
イ 地域の関わりとなる道路沿いの植栽について、樹種も含めた検討とする。
 - (3) 動線について
ア バス停から入口まで、移動しやすいよう工夫の余地がないか検討する。
イ 入口から遠い駐車場からも、移動しやすいよう駐車場の配置計画を検討する。
ウ 亡くなられた方の動線について、寝台車までの搬送経路について検討する。

【会議概要】

○清水都市デザイン担当課長

(開会挨拶、配布資料確認、出席者照会及び議事説明)

○田中座長

本日の議題である広島市医師会運営・安芸市民病院病棟等建替え工事について設計担当課より説明をお願いします。

○橋本施設整備担当課長

(議事「広島市医師会運営・安芸市民病院病棟等建替え工事について」の説明)

○田中座長

ただいまの説明に対して、設計方針やデザイン上の配慮事項に関する御提案や御質問等あればお願いしたい。

○柏尾委員

当病院は、地域密着の中規模の病院であるため、設計者の方には建設コストも厳しいと思うが、地域住民のために良い病院を建てていただきたい。

最初の質問であるが、安芸市民病院ならではの意匠性をどのように考えているのか。

○設計業務委託者(森下氏)

周辺を山々に囲まれた住宅地の中に立地しているため、この住宅地との関係性をどのように捉えるか考えたい。

当病院の特徴として、地域の方が主に使用する病院であり、高齢者の方の利用が多いことがある。このような利用者が親しみやすい、地域に根差した病院としたい。

また、安芸の豊かな自然に調和したデザインとしたい。

○柏尾委員

意匠的には、安芸市民病院ならではの部分は弱いということか。

○設計業務委託者(森下氏)

地域の歴史や産業といった特徴的な独自の安芸らしさというよりは、先ほどお伝えした、地域に密着し、地域の方に親しまれる病院にしたい。威圧感のない、周辺の自然豊かな環境になじむようなカラーやデザインとしたい。

○柏尾委員

既存施設の緑色のサインは撤去しないのか。旧サインが残ることで、新病棟との連続性や関係性が阻害されてしまう。

○橋本施設整備担当課長

このサインは、来院者が遠くからでも病院の位置が分かるように設置されている。新病棟建設後にもサインを残すかどうかについては、現在検討中である。

○柏尾委員

連続性という意味で、サインの撤去を要望する。

その他、新しい病棟の建設に伴うサイン計画はどのような予定としているか。

○設計業務委託者(森下氏)

現在、平面計画を中心に進めているところであり、これから立面、断面計画を行う。

サイン計画は、立面計画が決定した後で行う予定である。フロントやデザインを統一感のあるものとするなど、外観や内観デザインのコンセプトに合わせたものとしてほしい。また、高齢者や車椅子の方などの利用者が分かりやすい、大きく見やすいサインとしてほしい。

○角倉委員

敷地外駐車場は残すということか。そうすると、駐車場の台数が155台とかなり増加しているが、何かシミュレーションを行った結果なのか。確かに北東に大きい敷地ができるので、駐車場にすることは予想されるが、デザインの観点からすると、病棟に緩和ケアが入るので、この緩和ケアへの入院患者や関係者の方々への配慮が重要である。その一つとして、安らぎがテーマになると思うが、その点で、緑地が不足しているのではないか。155台の駐車場が必要不可欠であれば致し方ないが、何とかして緩和ケア利用者への配慮を含めた配置計画や駐車場計画があるべきではないか。

全体構成のデザインとしては、地域のシンボル性の高いデザインというよりは、地域や病院の持つ機能と上手く関連付けたデザインの解き方をした方が良いのではないか。

○橋本施設整備担当課長

敷地外の駐車場については、市のものではないので残さない予定と聞いている。駐車場の数は、今の駐車台数と合わせた数としている。

○角倉委員

今の駐車台数に合わせたとなると、逆に足りているのかが心配である。

○橋本施設整備担当課長

155台で足りるとシミュレーションしている。

○角倉委員

駐車場数については、承知した。

緩和ケアという病院の機能に合わせたデザインの解き方をすると、地域の方にとって頼れる病院という位置づけになるのではないか。入院患者やその家族等への配慮を踏まえ、植栽の配置や外観デザイン、既存病棟の駐車場側のファサードについて、考えていただきたい。

○高田委員

植栽等の憩える場所が少し足りないのではないか。これからのことかもしれないが、屋上を緑化し、入院患者等が散歩できる場所としたり、半屋外的な休める場所を設けたり、もう少し考えられるのでは。屋上の使い方について、緑化やソーラーパネル等の計画はあるか。

○橋本施設整備担当課長

屋上の計画は、これから検討したい。

○高田委員

憩える場所や気持ちのいい場所を加えていただきたい。

○吉田委員

既存病棟にある機能訓練棟は、建替後どこに吸収されるのか。

○橋本施設整備担当課長

新病棟内につくる計画である。2ページの階構成イメージの図でいうと、新棟の3階リフトと1階事務部分に配置予定である。

○吉田委員

現在ある機能は残るということでよいか。

○橋本施設整備担当課長

そうである。

○吉田委員

新棟と既存棟の役割や機能が違うのであれば、既存棟からのデザインの継承はこだわる必要はないのでは。7ページ以降の住宅地の写真から判断すると、比較的古い住宅地のようである。この周辺環境になじむデザインというよりは、次の世代を見越した一歩進んだデザインとするべきではないか。現在の先進医療も導入するとなれば、なおさらデザインの新しさが必要ではないか。

○設計業務委託者（森下氏）

デザインの新しさという点は、おっしゃる通りである。古い住宅地に合わせたデザインとするのではなく、地域の自然景観や住宅地の色彩と調和するデザインとしたい。

既存棟とのデザインの継承については、新棟と既存棟で全く役割や機能が違うというものではなく、両方で一つの建物ではあるため、全く無関係な建物となってもバランスが悪い。バランスを見ながらデザインの検討をしたい。

○吉田委員

5ページのパースは、正確なものとなっていない。影の向きが間違っているのではないかと。素材面の検討の際には、直射日光が当たる明るい部分や影になっている部分とでは、相当色の見え方が違ってくるため、もう少し正確なシミュレーションとしていただきたい。また、特徴的な視点場からのモンタージュ写真があるとイメージが掴みやすい。

○橋本施設整備担当課長

次回会議では、もう少し詳細が詰められたものになるので、モンタージュ写真等のイメージが掴みやすいものを作成したい。

○今川委員

サービス側の駐車場が南西側に数台あるが、透析患者とサービスの入口はここになるのか。薬品や血液等の運搬車をこの駐車場に止め、この入口から病院に運び込むということか。

○橋本施設整備担当課長

そうである。

○今川委員

病院で亡くなられた方は、どのような動線になっているか。

○橋本施設整備担当課長

亡くなられた方も、この入口から出ると聞いている。

○今川委員

既存棟の緩和ケアの方が亡くなられた場合、新棟まで移動してからこの出口から出るようになるのか。

○橋本施設整備担当課長

そうである。

○今川委員

今はまだ緩和ケア病棟の平面図が確認できないので分からないが、既存棟の緩和ケアで

亡くなられた方は、既存棟東側の職員入口からそっとお見送りして、既存エネルギー棟横の坂道から敷地外へ搬送するなどの、亡くなられてから搬送までの動線が短い方がよいのではないかと。ネガティブな配慮ではあるが、そのような配慮があってこそその緩和ケアであるように思う。

バス停からの外来受付までの動線について、足の不自由な方も利用されると思うが、この配置はどうなのか。バス停から外来までの距離が長く案内が難しいのではないかと。

駐車場の位置について、例えば緊急で来られた方が、病棟の近くに駐車できなかった場合、この距離を移動しなければならない。

様々な使い方をイメージし、アプローチ方法を工夫いただきたい。

○橋本施設整備担当課長

バス停の位置については、現在協議中であり詳細は未定である。

亡くなられた方のお見送りについては、運用上の問題でもあるので、利用者や管理者等と協議を行った計画とする必要がある。

○小菅委員

三つほど質問がある。

一つ目は、配置図の中にヘリコプター離着陸スペースがあるが、これはどういったことか。

二つ目は、駐車場全体で155台のスペースが確保できたとしても、体調が悪い場合や車いす駐車場が満員であった場合、駐車場所から入口まで移動距離が長くなってしまうので、駐車場の間に小道を設けるなど少しでも移動しやすいよう工夫してはどうか。

最後に、緊急入口と夜間・感染入口について、この病院はコロナ指定の病院ではないと思うが、現在のウィズコロナの時代において、感染対策のための動線確保をどのように考えられているのか。

○橋本施設整備担当課長

ヘリコプター離着陸スペースについては、災害時のヘリコプター輸送を想定してこの広さを確保している。

駐車場からのアプローチについては、御意見を踏まえて検討していきたい。

コロナ等感染対策についても現在検討中である。次回会議において、平面計画をもとに御回答したい。

○久山市立病院担当課長

コロナウイルス関係で補足させていただく。基本計画上は、感染症の疑いがある患者が来院した場合に備え、専門の診察室を整備することとしている。昨今のコロナウイルス蔓延に伴い、感染症対策を考える必要があると本市でも考えている。

感染患者と一般患者の別動線確保や検査室等の配置について、これから詰めていきたい。

○吉田委員

1 ページ目の第一の目的の最後のところに、既存建物の改修とあるが、現時点で決定している改修内容はあるか。

○橋本施設整備担当課長

現在、内部のレイアウト変更を計画している。病床や事務関連の移動を行い、利便性の良い建物になるよう検討している。

○吉田委員

写真を見ると、既存病棟は古い建物のようだが、外壁の塗り替えの必要はないのか。先ほどの話にも繋がるが、既存病棟のサインや色にこだわる必要はないように思う。新棟を建てた後、既存病棟を新棟に合わせて外壁塗装や改修するといった方向性もあっていいのではないかと。

○橋本施設整備担当課長

既存病棟の改修については、今後検討していきたいが、昨今の外壁改修はアスベスト等の関係で費用が掛かることもあり、予算も含めて検討を重ねたい。

○柏尾委員

既存病棟サインの色については、恐らく20年ほど前の病院新設の際に、病院という用途からとりあえずグリーンを選ばれたと推測するが、安芸市民病院の新しい意匠面を打ち出していく必要があるのではないかと。

例えば、企業であればコーポレートカラーがあるように、安芸市民病院のカラーを決めることで、愛される病院の意匠的な答えになると考える。

○橋本施設整備担当課長

既存病棟のサインを残すことになれば、色の検討をしたい。

○今川委員

現在の病院の診察券は何色であるのか。

病院で配布する袋の色等、使用している色があるのか。HPでは青色が使用されている。

○柏尾委員

企業というコーポレートカラーについて、安芸市民病院では特にこれまで検討されていないのではないかと。緑色のサインや診察券を作る際に、その時々で色を決定されたのではないかと思う。今回は病院が大きく変化するタイミングであるので、このイメージカラーについても病院と検討し、決定する必要があるのではないかと。

○今川委員

ご高齢の方が多く病院を利用されているのであれば、診察券の色は変えにくいのではないかと。利用者は、診察券の色でどの病院のものであるか判断しているように思う。

○久山市立病院担当課長

色は統一されていないようなので、必要であれば、病院と検討していきたい。

○角倉委員

先ほどの吉田委員の話と関係するが、建替え後は、駐車場側から既存棟の裏側が丸見えとなるので、既存棟の大規模改修は難しいかもしれないが、長期的な視点でデザインを統一、整えていてもらいたい。今回の建替えのタイミングですぐにということは無いと思うが、恐らく、駐車場側に立ったときに既存棟の裏側がファサードになると思われるので、緩和ケア利用者や高齢の方が安らげる植栽をここに整備すると、市民が利用しやすい、市民に共有される病院になるのではないかと。長期的な面を含めた検討をしていただきたい。

○橋本施設整備担当課長

既存棟建設から20年近く経っているので、外壁改修の時期が来る。その際に、今回の会議である程度、既存棟の色をどうするのか検討しておけば、その外壁改修の時に役立つと思うので、この点についても少し検討したい。

○角倉委員

既存棟の外壁改修後のイメージまで作っておいた方が、病院側にも説明しやすいだろう。今回の工事外のことになり、設計者の方には申し訳ないが、将来のデザインの方向性も提案していただくことは、病院にとっても良いことであると思う。このイメージ作りやイメージカラーの検討をしていただくとより良いと思われるので、よろしく願いたい。

○橋本施設整備担当課長

検討していきたい。

○田中座長

吉田委員の話とも関連することであるが、今回の建替えがさらに将来の既存棟の改修等を引っ張っていくようなものになると良いと思う。その他、意見はあるか。

○今川委員

バス停を病院のロータリーの中に移動することは難しいか。

○橋本施設整備担当課長

安全という観点から、責任の所在について、バス会社と病院管理のどちらにするのかという問題もあり、敷地内にバス停を移動することは困難であると思われる。また、通常のバスの大きさであると、このロータリーの大きさでは出入りが困難である。ロータリーの大きさを大きくすると、駐車場の台数が確保できなくなるので、それも難しい。

○今川委員

現在の道路にあるバス停も、歩道側にすこし拡張しているので、バス停を動かすことも難しいのだろう。

○橋本施設整備担当課長

そうである。

○今川委員

13番の写真であるが、バス停で降りた場合、病院側にどこで道を横断するようになるのか。

○橋本施設整備担当課長

12番の写真で横断歩道が確認できると思うが、バス停から降りた方は、一度病院入口とは反対の南に少し下がってから、この横断歩道で病院側に移動し、再度北の病院入口へ移動するという形となる。

○今川委員

横断歩道から入口までの歩道の距離が長い、建物の脇を通ることや透析側の入口から病院に入り外来受付に移動するなど、敷地内や建物に入ってから移動することはできないのか。

○橋本施設整備担当課長

敷地内や建物内に入ってから外来受付へ移動することは、できるかもしれないが、どうしても、横断歩道とは反対側に外来受付があるので、そこまでは移動して頂く必要がある。

○今川委員

体の不自由な方にとって、時間をかけて横断歩道からの道路脇の歩道を歩くことは、暑い日や雨の日だった場合、つらいのではないか。建物内に一度入ってから受付に移動できる方が、ユニバーサルといえるのではないか。移動距離が同じであっても、建物内の雨

に濡れない、寒さや熱さを感じない室内を歩いて受付に移動できる方が、体の不自由な方にとって配慮が行き届いている感じを受ける。

○高田委員

この場所を知っているが、歩道が非常に狭い。雨の日に傘を差した状態で離合するのは大変である。

○橋本施設整備担当課長

バス停の話に戻るが、一般のバスは一日あたり9便ほどあり、このバスは先ほどの説明のとおり、今のバス停を利用することとなるが、この地域にはコミュニティーバスという別のバスがあり、こちらは現在も病院内の駐車場まで入ってくるようになっている。建替後も、このバスは、ロータリーまで入ってくる。大きい一般のバスは敷地内に入ることができないが、恐らく地域の方はこのコミュニティーバスを多く利用されているのではないだろうか。

○今川委員

公共のバスで来院される方はまれであるということか。

○橋本施設整備担当課長

コミュニティーバスも市で運営している公共的なバスである。

○今川委員

これだけ大きい駐車場があるということは、大半の方は自家用車で来院されるのか。

○橋本施設整備担当課長

そうである。

○今川委員

では、公共のバスで来られる方は、バス停からの移動については、致し方ないということか。

○橋本施設整備担当課長

公共のバスに乗車できる方は、ある程度歩ける方と認識している。

○今川委員

以前は同様の考えであったが、御高齢の方ほど、タクシーを使用しない節約志向の方が多いように思う。

○橋本施設整備担当課長

コミュニティーバスもその他の公共バスと同程度の値段である。

○今川委員

公共のバスを使用する方が少ないとしても、様々な事情があってバスを使用しているのかもしれない。難しいことではあるが、少数のバス利用者に対しても、配慮すべきであると思う。

○橋本施設整備担当課長

できる限りの範囲で、利便性を考慮して関係局と調整は行っていきたいが、安芸市民病院建替のために、周辺道路を整備すること等は、難しい。

○田中座長

時間となったので、まとめさせていただきたい。

今川委員、高田委員、小菅委員が言われていた、ユーザーの目線に立った際、動線に少し不安なところがあるということで、動線や配置計画を可能な範囲でご検討いただきたいということがひとつ。

柏尾委員が言われていた、全体的にデザインに独自性があると良いのではないかとことや、吉田委員からの新しいデザインが必要なのではないかとということについて、地域性や新しさ、何を追求するかによると思うが、地域の皆さんにとってのランドマークやアイデンティティーになるような建物になると良いのではないかとということ。

具体的な話になるが、既存の外来・緩和ケア棟との関係について、最終的に既存棟と新棟とが統一されるデザインの方向性が必要ではないかと思う。それは、既存棟に合わせるのではなく、既存棟を引っ張っていくデザインを考えられると良い。その一環として、既存棟のグリーンのサインについて、まだ検討の余地があるとのことで、二棟のデザインの統一性という観点から検討していただきたい。

角倉委員が言われていた、駐車場と外構の植栽について、私も安らげる、憩える場所、余裕のある空間があると良いと思ったが、これは現実的な範囲で検討いただくようになると思われる。

道路境界面の辺りについて、植栽を設ける計画になっているが、ここに何か地域の皆様とのインターフェースとなるような、桜やカエデ等の季節を感じる樹種を植える等、地域の風景となる植栽等がこの道路境界面にあると、憩いや安らぎの空間にも繋がるのではないかと思った。

駐車場に関して、これからの検討であると思うが、アスファルトの駐車場がこれだけの面積広がるのは、少し寂しく感じるので、駐車場の舗装面を少し工夫されるとよいと思う。

以上、大きく分けると、動線、全体的なデザインの独自性、既存病棟とのデザインの統一性、緩和ケア機能に対する植栽の配置について、の4点が主な提案の内容であったように思う。

本日本日予定していた議事については以上である。